

事例 3 5 放流量を少なくした事による水質改善事例

1 基本情報および一年間の測定結果等

処理方式	性能評価型 窒素除去型				人槽/使用人員				5人槽/4人使用			
メーカー/型式	フジクリーン工業(株)/CF型				日平均汚水量				0.72m ³ /日			
作業予定月(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
保守・清掃・法定	保守	-	清掃	-	保守	-	-	-	保守	-	法定	-

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室 (cm)		1次処理2室 (cm)		処理水槽 (cm)		
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	
清掃	平成25年3月21日	20	/	7.2	12	21	28	/	21	/	/
保守	平成25年5月28日	26	0.4	7.2	17	4	14	0	12	0	6
保守	平成25年9月27日	19	0.5	7.0	11	13	21	0	17	2	11
法定	平成25年11月21日	22	0.7	6.9	10	17	30	0	26	4	18
保守	平成26年1月9日	43	1.3	7.0	14	22	24	2	20	0	9

2 法定検査時の槽内状況と設定状況および概要図

法定検査時の状況			概要図		
① 戻りせきの調整位置が高く、2室に戻り水が無い。 ② 薬筒前の移流せき目安形状の上端を超え放流している。 ③ 処理水槽に堆積汚泥が多い(18cm)。			<p>ろ材 ■■■■■ 接触材 ●●●●● ろ過担体</p>		
	メーカーの基本設定	保守点検の設定			
放流量の目安	目安形状の上端と一致して放流	目安形状の上端を超えて放流			
循環水量	1.5 L/分(おおむね3Q)	1.6 L/分			
逆洗設定	1日 3回 (1回 10分)	1日 3回 (1回 10分)			

3 槽内写真

流入			放流
	1次処理槽内水位 LWL HWLまで上昇した形跡無し	2次処理の状況 左:1次処理2室 右:2次処理	
	① 戻りせきの調整位置が高く 戻り水が無い。	② 処理水槽にスカム4cm 堆積汚泥が多く18cm	③ 移流せき目安形状の上端と 一致しているか確認する。

4 透視度低下の原因

- ① 戻りせきの調整位置が高い為、移送水量の調整ができていない。
- ② 処理水槽に汚泥の蓄積が多いことで、放流水透視度が低下している。

5 法定検査から保守点検への指示内容

- ① 処理水槽のスカムを移送後、循環バルブを全開にし堆積汚泥を移送して下さい。
- ② 放流水が移流せき目安形状の上端と一致するように、戻りせきの位置を調整して下さい。

6 保守点検から法定検査への返信内容

放流水の水質		措置① 平成 25年 11月 25日 (法定検査から 4日後)
透視度(度)	21	指示通り移送と調整をしました。 移流せき目安形状の上端と一致して放流することを確認しました。
pH	7.0	
DO(mg/L)	0.7	
放流水の水質		措置② 平成 25年 12月 9日 (法定検査から 18日後)
透視度(度)	41	透視度が改善しました。 放流水は目安形状の上端と一致しています。
pH	7.1	
DO(mg/L)	1.4	
放流水の水質		措置③ 平成 年 月 日 (法定検査から 日後)
透視度(度)		
pH		
DO(mg/L)		
放流水の水質		措置④ 平成 年 月 日 (法定検査から 日後)
透視度(度)		
pH		
DO(mg/L)		

7 保守点検から清掃への申し送り事項

- ① 循環水量は1.6L/分で調整しています。
- ② 逆洗は1日3回10分で設定しています。
- ③ 戻りせきの高さを変更しないで下さい。

8 清掃作業時の留意点

- ① 清掃記録票から水質等、一年間の経過と申し送り事項の内容を踏まえ作業と調整を行う。
- ② 1次処理1室のろ材はへちま様板状、2室は網様円筒状。
- ③ 1次処理1室の汚泥濃度が高くなる為、ろ材の強制攪拌を実施する。
- ④ 1次処理の立ち上げを早める為、ろ材の洗浄はしすぎない。
- ⑤ 戻りせき調整位置を確認する。